

### 3-4 宮城県沖の地震活動パターン変化 (その7)

#### Current Seismicity Pattern Change around Off-Miyagi Prefecture (Part 7)

防災科学技術研究所

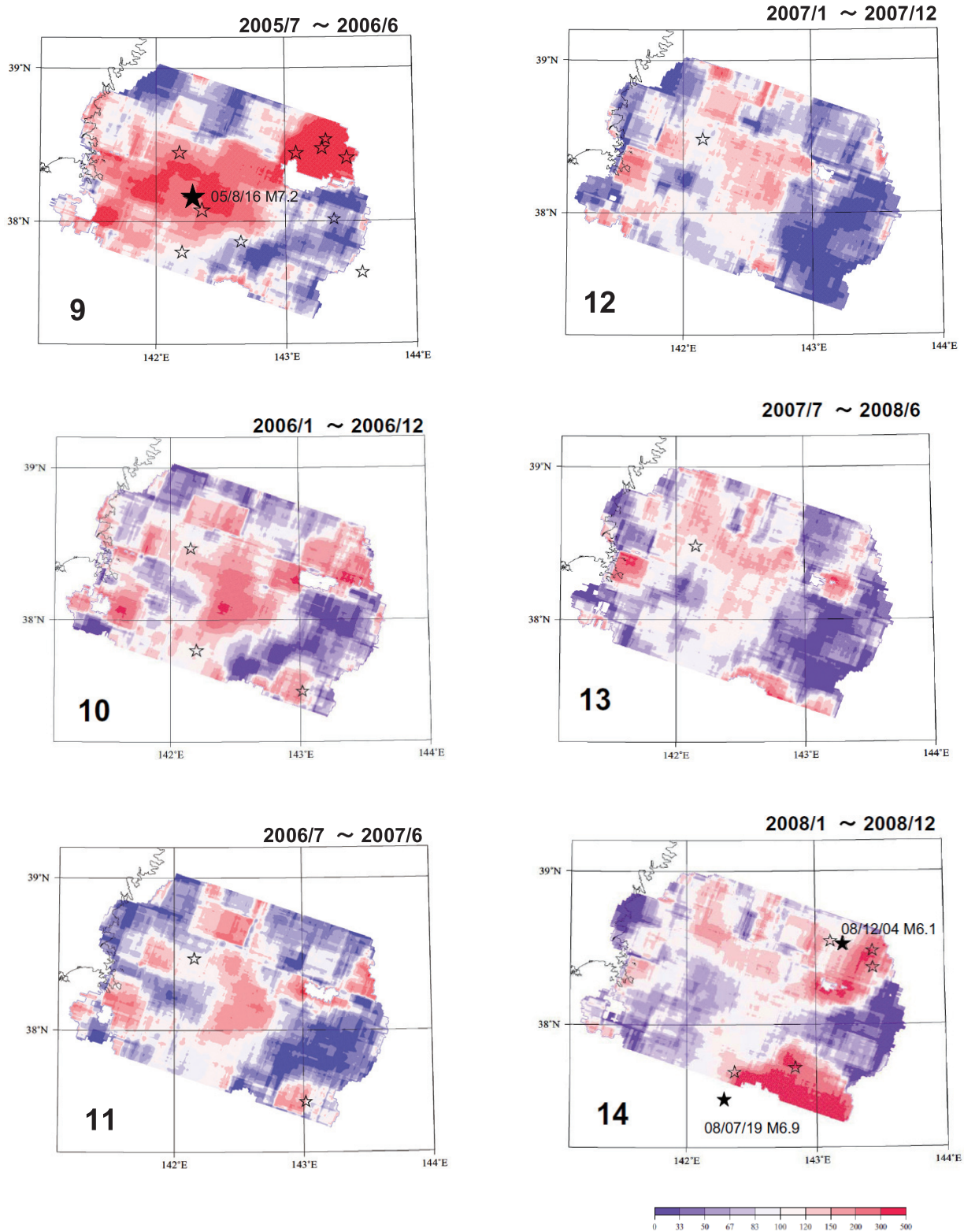
National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention

前報<sup>2)</sup>に引き続き、宮城県沖の地震活動変化について報告する。第1図は、2005年8月の宮城県沖地震(M7.2)の後、2008年末までの活動度変化を示す。1年間の調査期間とした各ステージの図は、その前5年間の活動に対する地震発生率比をカラーグラデーションで示したものである。対象とする地震は、太平洋スラブ内二重地震面上面のM1.5以上とし、デクラスタリング処理を施している。白星、黒星は、それぞれのステージに起きたM5、及びM6以上の地震を示す。最新は第14ステージである。このステージでは、調査領域の右上と中央下部にM6地震が起きているが、両者ともその活動域(濃い赤)は直前の第13ステージでも近辺に活性化域(赤領域)が成長していたことが分かる。第9ステージと第14ステージを比較すると、2005年宮城県沖地震の余震活動による活性化状態はかなり薄れたものの、同地震の割れ残り指摘される北部及び西部には、まだ弱い活性化部分が残存する。

(松村正三)

#### 参考文献

- 1) 松村正三, 連絡会報, 81, 99-100, 2009.



第1図 地震活動変化 (青：静穏化，赤：活性化)．デクラスタリング処理を施したM1.5以上の地震に対して調査対象期間1年分の活動をその前5年分と比較している．白星，黒星は各ステージで起きたM5，及びM6以上の地震．

Fig.1 Color contours correspond to the seismic activity ratios between the focused period (one year) compared with the standard one (preceding five years). Stage 9 contains the M7.2 event on 16 August, 2005 and its after sequences. Open or solid stars are epicenters of M5 or M6 and greater earthquakes occurred in each stage.